

学校名	北秋田市立 鷹巣中	学校	学校運営協議会	令和5年2月2日	
校長名	小林 秀雄	開催日			
学校教育目標	心豊かな、創意に富んだ、たくましい生徒の育成				
項目	1 活性化のための取組				
学校の取組概要	<p>人、物、こととのかかわり、コミュニケーションをとって前進する</p> <p>1 夢や目標の実現に向かう進路選択</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画的な進路指導 (キャリア教育) ・ 系統的な進路指導 <p>2 郷土の一員としての自覚と態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 伝統を知り、守り、共に行う ・ 地域を知り、伝える活動 <p>3 学校・家庭・地域、関係機関との連携・協働</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者・地域への情報発信と交流 ・ 地域の教育力の活用 	自己評価			
		中間	年末		
		4	4		
		③	③		
		2	2		
		1	1		
学校運営協議会の意見等	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の3年生の進路の特徴は何か、また、計画的な進路指導についての教員評価がやや低いところが気になる。 後期の数値の回復は、校内ハローワーク等の取組の成果だと考えられる。 中学校部活動が地域移行になるようだが、現在の動きとしてはどうか。 公民館としては、どのようにして参加してもらうかが課題。学校全体で参加となれば来てくれるが、自分で決めて参加ということがかなり難しい状況である。これは大人の世界も同じで、公民館講座に集まらない。また、女性に比べ、男性の参観が少なく、学びの会の設定には苦慮している。 子ども神輿をしているが、中学生・高校生になると参加率がかなり減少する。 伊勢堂岱遺跡には全校生徒が行っているのか。ぜひ、遺跡や綴子神社の歴史等に触れてほしい。今の子どもたちがいずれは保存していけるようにしたい。 学習と体験であれば旧長岐家住宅、火まつりかまくら、市の文化財のくらやま風穴等、胡桃館遺跡はもっと大事にしなければいけない。そのようなものをもっと学ばなければならず、いろいろな取組ができそうだと思う。 			関係者評価	
		4	4		
		③	③		
		2	2		
		1	1		
次年度の施策	<ul style="list-style-type: none"> 2名の大学生と16事業所の方をお招きして校内ハローワークを行い、個々の生徒が自分のこれからの生き方について学びを深めた。3年生は高校進学に向けて、進路への目標を明確にしていく。学校は、保護者、生徒に粘り強く関わりながら、キャリア発達を支援していく。また、次年度のキャリア教育計画の作成に向け、コロナ禍での体験活動の在り方等を検討していく。 地域を知り伝える活動は、コロナ禍ではボランティア活動も含めてまだ難しい状態だが、できそうなものから生徒会を通じて紹介し、参加を呼び掛けたい。今後も状況を見据えながら、生徒や教職員の安全・安心を確保しながら実施を検討していく。校内における伝統活動については、各地域の行事等との関わり方を学校運営協議会等での熟議を通して検討する。 一昨年度設置した、「ふるさとロード」の内容の充実を図りながら、地域の方々に来校いただき生徒の声や姿が見える学校づくりに取り組んでいきたいと思う。また、授業における地域人材 (本校卒業の高校生・大学生を含む) の活用による教育の充実にも取り組んでいきたい。 				
項目	2 知 育				
学校の取組概要	<p>主体的に学び、コミュニケーションをとって深める</p> <p>1 基礎的・基本的な学力の定着と向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な学習習慣の形成 ・ 自主的な学習習慣の形成 ・ 個に応じた指導の工夫 <p>2 学びを活用し、課題を発見・探究・解決・表現する力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 対話的な学びの工夫 ・ 深い学びの工夫 <p>3 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の成長</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳科の授業と振り返りの工夫 	自己評価			
		中間	年末		
		4	4		
		③	③		
		2	2		
		1	1		
学校運営協議会の意見等	<ul style="list-style-type: none"> 学習習慣については、引き続き、全教科で足並みを揃えて指導を進める。 主体的、対話的な授業を実現するためのPCの活用が進んでいる。 例えば、進学校に行きたい生徒が、成績がギリギリであれば…。学校に枠が決まるとか、どこでどのように差配しているのか。 			関係者評価	
		4	4		
		③	③		
		2	2		
		1	1		
次年度の施策	<ul style="list-style-type: none"> 学習習慣 (話の聞き方、話し方、姿勢等) については、各学年・教科で足並みを揃えて共通実践し、凡事徹底を目指していく。学習習慣の定着には、個別の指導や家庭学習の充実が大切だが、生徒が自律して当たり前を当たり前でできる学校を目指す。各種テスト等を生かした評価を基に学習相談の機会を設けていく。気軽に相談できる関係づくりは、生徒理解や授業内容の定着にもつながるものとして充実を図る。 主体的に課題を捉え、対話しながら学びを深めていくためには、ねらいを明確に示し自分の考えをもたせること、考えを交流させて授業の終わりに学んだことを確認することが必要である。教科ごとに主体性、相互性、深い学びを育むための手立てを明らかにし、ICTの活用などにも力を入れ、一往復半+αのための発問の準備の更なる充実を目指して、研修を深めながらよりよい授業を目指していく。 道徳の授業がどの学級でも確かに行われ、感じたことや考えたことが道徳的判断の基となり、それが日常における実践につながるよう見取り、大切にしていく。学校行事等の感想を掲示することでコミュニケーションを大切にされた教科等横断的な道徳教育を進めるとともに、学級色の見える「道徳コーナー」の充実を図っていく。 				

項目		3 徳 育	
学校の取組概要	<p>コミュニケーションを図り、相手と心を通わせる</p> <p>1 学級活動を基盤とした集団生活の活性化 ・自己有用感を高める環境づくり ・自他の理解を深める集団づくり</p> <p>2 創意を生かした自発的で自治的な生徒会活動の活性化 ・創意を生かした生徒会活動 ・友や地域を元気にする活動</p>	自己評価	
		中間	年末
		4 ・ ③ ・ 2 ・ 1	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1
学校運営協議会の意見等	・毎朝の教員の取組について、頭が下がる。感謝したい。	関係者評価	
		4 ・ ③ ・ 2 ・ 1	
次年度の施策	<p>・学年主任のリーダーシップの下、学級担任と学級委員等が相談しながら学級自治を進め、自己有用感の向上に取り組んできた。また、上級生が下級生に教える場面、上級生がリードする場面が多く見られた。3年生は受検に向けた仲間との触れ合い、1、2年生は新たな生徒会活動に向けた学級・学年づくりを通して、自己有用感を高める集団づくりに取り組んでいく。</p> <p>・生徒会活動への引継をしっかりと行い、新たな役割に責任ややりがいをもたせて進めていく。2年生は次年度に向けた意識が高まりつつあり、鷹中伝統の「あいさつ」「やる気」「挑戦」の一層の具現化に向けて鷹中プライドが醸成しつつある。ボランティア活動では野球部が交通安全を呼び掛けたり、阿仁のストリートキャンドルや葛黒火まつりかまくらなどに参加したりして、コロナ禍の中での活動の在り方を模索している。</p> <p>・学校報、学年通信や保護者メールなどを通して、生徒の活躍や生徒会の活躍等の紹介を継続し、自尊感情や自己有用感を高めていく。日常における授業の様子や清掃活動の様子、挨拶の様子、整理整頓などについて、生徒個々の成長を見逃さず、保護者にも伝え、全ての生徒が「やりがいがある」や「楽しい」と感じる学校を目指す。</p>		
項目		4 体育・健康教育	
学校の取組概要	<p>心身の変化や成長を理解し、「かかわり」合って信じ合う</p> <p>1 心の健康の保持増進 ・安全・安心な生活の推進 ・教育相談、諸調査・アンケートの活用</p> <p>2 体の健康の保持増進 ・望ましい生活習慣の形成 ・継続的な体力づくりの実践</p> <p>3 予測に基づく危機管理・不祥事防止 ・安心して学べる校内外の環境の整備 ・研修の継続実施</p> <p>4 教職員の心身の健康 ・勤務時間の適正化 ・休養日の確保</p>	自己評価	
		中間	年末
		4 ・ ③ ・ 2 ・ 1	4 ・ ③ ・ 2 ・ 1
学校運営協議会の意見等	<p>・以前は歩行者用の跨線橋があったのだが、解体後に予算の関係で立ち消えに。送迎で時間帯によっては大渋滞になり大変である。ぜひ、自転車・歩行者専用の踏切設置など行政が頑張るべきところである。</p> <p>・JRの方からは、新しい踏切は許可しないと言われている。跨線橋についても、詳細を確認したら予算が膨大であり、市としても断念した経緯がある。別の土地を考えるしかない。</p> <p>・学校から通学路についての要望は出せる。毎年校外指導部と連携して出している。跨線橋等を付けてほしいという要望は難しいが、何らかの対応は求めている。反対側(SEE Dがない方)の陸橋へという案もあるが、民家が少なく暗くなる危険性があるため、不安も多い。</p> <p>・3年間をマスク生活で卒業していく生徒が、可哀そうでならない。何かできないものだろうか。</p> <p>・教職員の勤務時間について、教頭先生はこの数値に入るのか、また出退勤カード等の取組で改善しているのか。</p>	関係者評価	
		4 ・ ③ ・ 2 ・ 1	
次年度の施策	<p>・鷹中プライドの下、学校生活の約束の徹底を継続するとともに、自分で自分を律する心を育みながら全校生徒の安全・安心を確保していく。また、生活ノートや自学ノートを通じて学級担任等と生徒との交流を通して、悩みを把握し、さわやかぬくもり委員会やスクールカウンセラーの相談活動を充実させていく。生活上の様々なルールについては、学校生活に合わせた見直しを図るとともに、生徒による自律を促す。</p> <p>・帰宅時間が早まることで家庭で過ごす時間が増え、ゲームやスマホ等による生活習慣の乱れが心配されることから、生徒や家庭との相談活動・教師間の情報交換を行い、呼び掛けを強化する。特に、学校へのスマホの持ち込みやSNSへの画像等のアップには細心の注意を払っていく。</p> <p>・生徒の交通事故防止、ゲーム利用・ネット利用などによる健康被害・犯罪加害被害のないように観察や情報収集に努める。また、教職員においても同様に、特に交通事故については啓発と研修を継続していく。新型コロナウイルス感染症の感染防止、発生時の冷静な対応、拡大防止については気を緩めることなく取り組んでいく。</p> <p>・日課表の改訂や部活動分担表の意味を浸透させ、互いの働き方改革の意識を醸成し、高めるようにする。また、部活動については、親の会と連携を取りながら、冬季の活動時間の約束を守ることを継続していく。</p>		

*評価は、4段階（4：十分達成できている 3：達成できている 2：少し不十分である 1：不十分である）